

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成30年5月10日(2018.5.10)

【公開番号】特開2017-49471(P2017-49471A)

【公開日】平成29年3月9日(2017.3.9)

【年通号数】公開・登録公報2017-010

【出願番号】特願2015-173701(P2015-173701)

【国際特許分類】

G 10 L 15/22 (2006.01)

G 10 L 13/00 (2006.01)

【F I】

G 10 L 15/22 300 U

G 10 L 13/00 100 M

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月22日(2018.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対話相手からの発話に対して応答可能か否か判定する判定手段と、  
前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、次の話題につなげるための応答文を作成する作成手段と、

前記作成手段が作成した次の話題につなげるための応答文を発話する発話手段と、  
を備えたことを特徴とする対話制御装置。

【請求項2】

前記作成手段は、前記次の話題につなげるための応答文として、話題転換を前記対話相手に示唆する文を作成する、

ことを特徴とする請求項1に記載の対話制御装置。

【請求項3】

前記話題転換を前記対話相手に示唆する文は、不知又は詫びを表明する文である、  
ことを特徴とする請求項2に記載の対話制御装置。

【請求項4】

前記話題転換を前記対話相手に示唆する文は、不知又は詫びを表明する文の後に、次の話題に転換するための話題転換用の応答文が続く文である、

ことを特徴とする請求項3に記載の対話制御装置。

【請求項5】

前記判定手段は、前記対話相手からの発話中に所定のキーワードが含まれる場合に応答可能と判定し、該キーワードが含まれない場合に応答可能でないと判定し、

前記作成手段は、前記判定手段が応答可能と判定した場合、前記キーワードに関連付けされた応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項1乃至4の何れか一項に記載の対話制御装置。

【請求項6】

前記作成手段は、前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、前記次の話題につなげるための応答文に加えて、該次の話題に転換するための話題転換用の応答文を作成し、

前記発話手段は、前記次の話題につなげるため応答文の発話に続けて、前記話題転換用

の応答文を発話する、

ことを特徴とする請求項1乃至5の何れか一項に記載の対話制御装置。

【請求項 7】

前記作成手段は、話題転換を相手に示唆する文を記憶する前置用 DB、話題転換前に発話され次の話題につなげるための文を記憶する話題転換用 DB の少なくとも 1 つを参照して、応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の対話制御装置。

【請求項 8】

前記作成手段は、前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、前記前置用 DB を参照して、話題を転換することを示す応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項 7 に記載の対話制御装置。

【請求項 9】

前記作成手段は、前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、前記話題転換用 DB を参照して、話題を転換した応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項 7 に記載の対話制御装置。

【請求項 10】

前記作成手段は、応答用 DB、前置用 DB、話題転換用 DB の少なくとも 1 つを参照して応答文を作成し、

前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、前記作成手段は、前記前置用 DB を参照して作成した前置用文と、前記話題転換用 DB を参照して作成した話題転換用文とを、この順番で並べた応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の対話制御装置。

【請求項 11】

話題毎にその話題に関連する名詞又は形容詞であるキーワードを対応づけて記憶したキーワードテーブルをさらに備え、

前記作成手段は、前記キーワードテーブルに記憶されているキーワードを多く含む会話へ誘導するように話題転換用の応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の対話制御装置。

【請求項 12】

前記話題転換用の応答文により転換される前記次の話題は、前記対話相手からの発話中に含まれる単語に関連する話題である、

ことを特徴とする請求項 6 又は 11 に記載の対話制御装置。

【請求項 13】

前記対話制御装置は、さらに、

前記発話手段による発話に対して前記対話相手から所定時間内に応答があったか否か判定する時間判定手段と、

前記発話手段による発話内容が応答に時間を要する内容か否か判定する内容判定手段と、

前記時間判定手段と前記内容判定手段との判定結果に応じて、前記対話相手に対話継続意思を確認する意思確認手段と、

を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の対話制御装置。

【請求項 14】

前記意思確認手段は、前記時間判定手段が前記所定時間内に応答がないと判定し、かつ、前記内容判定手段が前記発話内容が応答に時間を要しない内容と判定した場合、前記対話継続意思を確認する、

ことを特徴とする請求項 13 に記載の対話制御装置。

【請求項 15】

前記意思確認手段は、前記発話がオープン・クエスチョンであるか、クローズド・クエスチョンであるかによって、前記所定時間を変える、

ことを特徴とする請求項 13 又は 14 に記載の対話制御装置。

**【請求項 1 6】**

前記作成手段は、前記意思確認手段が前記対話継続意思を確認した結果、前記対話相手が対話を継続する意思を示した場合、前記次の話題に転換するための話題転換用の応答文を作成する、

ことを特徴とする請求項13乃至15の何れか一項に記載の対話制御装置。

**【請求項 1 7】**

前記意思確認手段は、前記時間判定手段が前記所定時間内に応答があると判定した場合、又は、前記時間判定手段が前記所定時間内に応答がないと判定すると同時に前記内容判定手段が前記発話内容が応答に時間を要する内容と判定した場合、前記対話継続意思を確認せず、

前記判定手段は、前記意思確認手段が前記対話継続意思を確認しない場合、前記対話相手からの応答に対して応答可能か否か判定する、

ことを特徴とする請求項13乃至16の何れか一項に記載の対話制御装置。

**【請求項 1 8】**

コンピュータが、

対話相手からの発話に対する応答文を作成する応答文作成ステップと、

前記応答文作成ステップで作成した応答文を発話する発話ステップと、

前記対話相手からの発話に対して応答可能か否か判定する判定ステップと、  
を実行し、

前記応答文作成ステップでは、前記判定ステップにおいて応答可能でないと判定した場合、次の話題につなげるための応答文を作成する、

対話制御方法。

**【請求項 1 9】**

ユーザである対話相手と対話を行う対話制御装置のコンピュータを、

前記対話相手からの発話に対する応答文を作成する応答文作成手段と、

前記応答文作成手段が作成した応答文を発話する発話手段と、

前記対話相手からの発話に対して応答可能か否か判定する判定手段と、  
して機能させ、

前記応答文作成手段は、前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、次の話題につなげるための応答文を作成する、

プログラム。

**【手続補正2】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記目的を達成するため、本発明の対話制御装置は、

対話相手からの発話に対して応答可能か否か判定する判定手段と、

前記判定手段が応答可能でないと判定した場合、次の話題につなげるための応答文を作成する作成手段と、

前記作成手段が作成した次の話題につなげるための応答文を発話する発話手段と、  
を備えたことを特徴とする。